

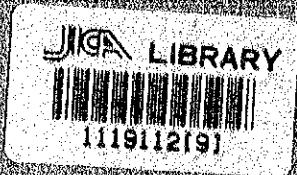
心をつなぐ地球人

青年海外協力隊の軌跡

心をつなぐ地球人

国際協力隊

00
36
TV
BRARY



国際協力事業団

27500

心をつなぐ地球人

青年海外協力隊の軌跡

はじめに

1965年に、初めて青年海外協力隊員を派遣して以来30年、協力隊事業は、さまざまな方からのご理解とご支援のもと、延べ62カ国に14,000名を越える隊員を派遣するまでに至りました。この間、国際情勢は大きく変動し、それに伴って協力隊の派遣国や職種、派遣形態にも変化がありました。

東ヨーロッパ諸国への派遣、環境問題への取り組みやチーム派遣によるプロジェクト形式の協力はその一例と言えるでしょう。

しかし、隊員一人ひとりの「人のために役に立ちたい」「自分の可能性を試してみたい」という気持ちは、今も昔もそのままです。それぞれの隊員が派遣国の言葉や文化、習慣の違いに戸惑いながらも、しっかりと現地社会にとけこみ、「今、現場で真に求められているものは何なのか」そして「いったい自分たちには何ができるのか」と、この瞬間にも世界の各地で試行錯誤しているのです。

「教えるよりも、教えてもらうことの方が多かった。」多くの帰国隊員から耳にするこの言葉は、現地にしっかりと馴染んだ活動の証しと言えるのではないのでしょうか。

30周年を記念し、こうした隊員の活動の一端を少しでも多くの方々にご紹介したいと考え、写真集を作成することといたしました。

発刊にあたり、ご多忙中にもかかわらず快く監修をお引き受け頂いた田沼武能氏、並びに、直接、現地で取材に当たられたカメラマン諸氏、写真提供に協力にいただいた方々に深く感謝申し上げます。

目次

はじめに	3
アジア	
6	
笑顔の中、 復興に向かい三角協力が動く	カンボディア 8
少数民族とのふれあいに、 隊員は心のふるさとを見た	タイ 14
過去の遺産の復元、 そして将来を担う子供たちへの教育を	ブータン 18
中近東	
24	
スポーツは誰でも楽しめるもの、 国境ありません！	シリア 26
女性隊員による、 女性たちへの道しるべ	モロッコ 30
アフリカ	
34	
「小さいのちを守りたい」 祈りは力となった	タンザニア 36
人を育てる、ソフトをつくる、 夢も大きく広がった	ガーナ 42
大自然の中、昼夜を問わず、 隊員の活動は続く	ザンビア 46
中南米	
52	
有機農業技術の普及、 農業改善に奔走する	コスタ・リカ 54
「子供の家」で隊員は、 明るい未来を育てていた	ドミニカ共和国 58
なぜ野菜を食べるのが、 その間いから活動は始まった	パラグアイ 64
オセアニア	
68	
資源を活かす貝の養殖、 そしてソロバンの響き	トンガ 70
隊員たちの協力で、 橋がかかった。夢が叶った	フィジー 74
東ヨーロッパ	
78	
日本語を通して、 日本の文化を知る	ブルガリア 80
武道への興味、 そして日本への関心	ハンガリー 84
青年海外協力隊30年の歴史	88
私と青年海外協力隊	田沼武能 95